
DMAT活動の実際:被災地活動—域内搬送の活動

(井原則之、大友康裕・編 エマージェンシー・ケア2010新春増刊 p.126-132)

2012年10月12日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

災害時の傷病者の搬送は、その搬送範囲により以下のように名称が異なる。

政府が実施する自衛隊機などを用いて、被災地内から遠隔の被災地外へ傷病者を搬送する、**広域医療搬送**。
救急車・ヘリなどを用いて、被災地内医療機関から被災地内外の医療機関へ傷病者を搬送する、**後方搬送**。
災害拠点病院等から広域搬送拠点（SCU）へ傷病者を搬送する、**域内搬送**。

大地震などの災害が発生し、被災地内の医療機関において十分な傷病者対応が不可能となった場合、広域医療搬送の実施が決定され、SCUが被災地内に設置される。傷病者は災害現場・救護所からSCUに直接搬送されない。その理由として、以下の4つがある。

広域医療搬送の適応か、災害拠点病院にて外傷初期診療と可能な限りの安定化処置を行い、その上で広域医療搬送の適応かどうか判断する必要がある。

SCUは医療施設ではないところに設置されるため、安定化処置・必要な検査などが十分に施行できない。広域医療搬送で利用される、広域医療搬送患者医療情報伝達用紙は、被災地内の災害拠点病院で作成する。

SCUは臨時の医療施設にすぎず、家族が傷病者に付き添うことは避けるべきであり、この説明は被災地内の災害拠点病院においてなされなければならない。

域内搬送で用いられる搬送手段は、ヘリコプターや救急車である。消防の救急車も域内搬送に優先的に利用されるべきであろう。また、域内搬送にはDMATが携わる。被災地内の災害拠点病院の人的資源を削ってはならず、域内搬送には被害地外からSCUに参集したDMATか、ドクターヘリ・病院救急車などで被災地に入ったDMATが携わる。

域内搬送に携わるDMATの役割について以下に述べる。域内搬送において医師の役割は、傷病者の状態に応じて安定化処置を継続することである。看護師の役割は、医師とともに必要な処置を行うことと、広域医療搬送患者医療情報伝達用紙に記録することである。また、域内搬送担当DMATは、被災地内の災害拠点病院において、SCUへ搬送する傷病者について状態・施行処置などの申し送りをうけ、SCUへ搬送する。SCU到着時には、SCU看護師リーダーの指示のもとに、SCU診療担当看護師が申し送りを受けに来るので、この看護師に広域医療搬送患者医療情報伝達用紙を渡す。域内搬送担当DMATは、傷病者をSCUへ搬送する役割がある。

域内搬送における搬送手段や優先順位の調整は、都道府県災害対策本部・都道府県DMAT調整本部を中心として行われる。運営計画を決定し、その後SCUの域内搬送情報担当者とは各災害拠点病院との間で域内搬送の手段・時間の調整がなされ、迅速にSCUへ傷病者を搬送する。